

「横浜港北スポーツみらいサミット2019～スポーツで街を元気に～」開催報告

慶應義塾大学と区のスポーツデータの取り組みなどを通して地域について考えるシンポジウムを開催しました。慶應義塾大学の教授やスポーツチームの関係者などと一緒に、テクノロジーや協働などを生かしてスポーツで街が元気になる未来を参加者全員で描きました。

日時：平成31年2月21日13：00～18：00

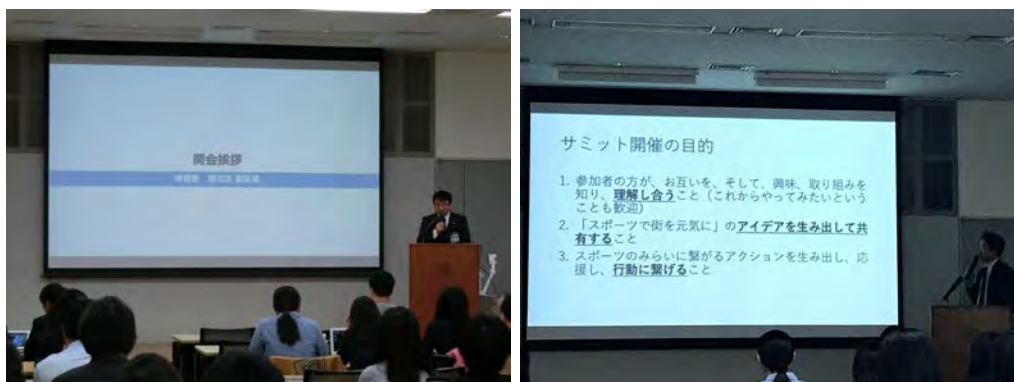
場所：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎

【当日の様子】

挨拶・はじめに

港北区からの開催挨拶、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の神武教授から、サミット開催の目的について説明をしました。

港北区は、区内において横浜国際総合競技場で開催される2019年のラグビーワールドカップ、翌年の東京2020大会、また慶應義塾大学日吉キャンパスでの英国チーム事前キャンプなど、スポーツにより更に盛り上がっていきます。今回は、スポーツやデータというテーマを中心に横断的な議論の場として開催しました。



インスピレーショントーク「地域でのスポーツ取り組み事例の紹介」（13:20-15:30）

9名の方に、港北区や慶應、スポーツやデータ、地域を取り巻く現状について、それぞれお話いただきました。

それぞれの分野で活躍されている方のお話を聞き、身近な場所で活動していても知らなかったことなど新たな発見がある時間となりました。

（登壇者）※平成31年2月21日時点の肩書でのご紹介になります

1. 小学生のスポーツ・体育の事情

＜伊藤創（横浜市立日吉台小学校教諭）＞

新体カテストの結果や体育に携わる先生たちの生の声の紹介を中心にした発表でした。新体カテストの結果では、学校により「シャトルランが苦手な他校より結果が悪い」など特徴が出るようです。現場の先生たちは、最近の傾向として「握力や投げる力」に課題を感じていることが多いそうです。

2. 日吉台小スマートスポーツプロジェクト

＜中島円（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任准教授）＞
小学校のラグビー授業において、データを活用し運動・測定・フィードバック（動画・アンケート）を行った取組みについての紹介でした。GPS受信機やドローンなどプロスポーツ選手が使用するようなデータ活用を小学生に体験してもらいました。授業における能力向上など3か月間の変化を追い、子どもたちにフィードバックしました。慶應蹴球部の選手にも協力いただき、選手と触れ合うことができ子どもたちも大喜びだったようです。



3. スポーツで地域とつながる街づくり～スマートスポーツ教室@吉日楽校

＜石原菜穂子（野村不動産ホールディングス経営企画部R&D推進課課長）＞
箕輪町の開発に伴い、工事期間中空き地になる広場において、地域と楽しむスポーツの取組みの紹介でした。
最新のデバイスを使用した鬼ごっこなど、足を運ぶだけで子どもと保護者が楽しめる仕掛けづくりについて紹介していただきました。



4. キッズパフォーマンスアカデミー

＜田原茂行(慶應義塾体育会蹴球部S&Cアシスタントコーチ/慶應義塾高校蹴球部S&Cコーチ/慶應義塾大学大学院SDM研究所研究員)＞
習い事の垣根を超え、走る、投げる等自分の体を自由に操るための運動の基礎を教えるキッズパフォーマンスアカデミーの紹介でした。
子どもの成長を科学するため、エビデンスやアクティブラーニングなどデータに基づき指導をしている話が印象的でした。

5. 創部120年を迎えた慶應ラグビーの挑戦

<和田康二(一般社団法人慶應ラグビー倶楽部理事/慶應義塾大学蹴球部GM)>

慶應蹴球部を支えるため、OB会が慶應ラグビー倶楽部として法人化するまでの道のりと、蹴球部の歴史を振り返る発表でした。

実際に選手の来ているユニフォームもお持ちいただき、みなさん手に取り興味津々見ていました。

6. 横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメントの取り組み

<坂井利彰(慶應義塾大学庭球部監督/慶應義塾大学体育研究所准教授)>

日本でも希少な国際チャレンジャー大会として、大会運営の裏側に迫る紹介でした。学生主体の運営が特徴であり、グッズ作成、クラウドファンディングなど企画から販売まで学生が携わっています。30年度は横浜市との連携も深め、大会充実に向けた取組の紹介がされました。

7. 東京2020大会に向けた慶應義塾大学の取り組み-Keio2020projectによる国際・地域交流-

<大類なおみ(Keio2020project)>

慶應義塾大学日吉キャンパスが英国チームの事前キャンプ地になったことを受け、学生サークルとして、選手の受け入れ・魅力発信を行う取組みの紹介でした。

6月には港北区民まつりでもブースを出店し、英国文化について発信しました。



8. 日吉陸上競技場における競走部の取り組み・慶應箱根駅伝プロジェクト

<保科光作(慶應義塾大学競走部長距離ブロックヘッドコーチ/慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師/慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任講師)>

慶應大学競争部が箱根駅伝を目指すプロジェクトについての紹介でした。一般の方を対象としたクリニックも実施しており、選手は練習だけでなく人に教えることから自らの学びを得ているそうです。

9. ITOP横浜：スポーツデータみらいデザインラボ

<有山俊朗(富士通テクニカルコンピューティング・ソリューション事業本部VP)>

横浜・スポーツ・データ・をテーマに行なった全3回のスポーツデータみらいデザインラボについての紹介でした。ラボのワークショップの様子として「人とデータが集まると色々なことが見えてくる」というお話が印象的でした。



ワークショップ「スポーツで街や人を元気にするためのアクション創出」 (15:45-16:45)

インスピレーショントークしていただいた方を中心に、各テーマに関心のある者同士でグループを作り、アクション創出のためのワークショップを行いました。

冒頭、アイデアを発散させるため、付箋に「やりたいこと」「実現できそうなこと」のアイデアをできるだけ多く書きます。

アイデア出しは各チーム盛り上がりを見せ、少し時間をオーバーする熱気でした。

その後、アイデアを整理し発展させるため、大きな模造紙に、似たアイデアの付箋をまとめていきます。

色々な人のアイデアが混ざっているため、まとめるのに苦労しているチームもありました。

その後、模造紙にまとめたアイデア付箋の中で、グループで一番やりたいことをアクションシートにまとめていきます。

議論が白熱し、各グループ素晴らしいシートが出来上がりました。

アクションシートは、次のパネルディスカッションにおいて各チーム代表者から発表されました。



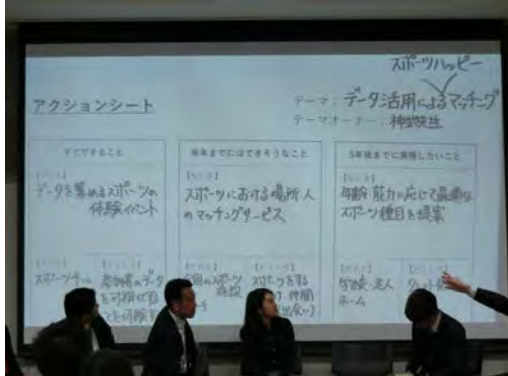
パネルディスカッション (17:00-17:50)

ワークショップで作成したアクションシートを発表するため、各グループからテーマオーナーが登壇し、パネルディスカッションを行いました。

「体育の授業でスポーツをより楽しむための工夫」、「子どもたちとスポーツで地域を元気にする活動」、「大学スポーツ観戦を盛り上げる取組」、「地域と世界をつなげるスポーツイベント開催」、「新たなスポーツ競技の提案」、「データ活用によるスポーツのマッチングサービス」等、様々なアクションが出そろいました。

年齢・能力によって最適なスポーツ種目を提案してくれるアプリの提案など、データを活用することでスポーツの捉え方やかかわり方が変わるような面白い話を聞くことができました。

発表中、他のパネリストから「その取組なら協力できる！」など、活発なパネルディスカッション行われ、今回のサミットを通じた今後の活動が楽しみです。



閉会 (17:50-18:00)

長丁場にわたるサミットもあっという間に時間が過ぎ、最後に、慶應大学体育研究所の石手所長から閉会挨拶がありました。

「近くにいってもなかなかお互い知らない活動があり、今回をきっかけにつながることでいい機会になったと思う。素晴らしいアイデアが出たので全部が意味のある活動になればよい」とお言葉をいただき、熱気冷めやらぬ中閉会しました。

